

# りべらしおん

研究所ニュース

No.54

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: fukuokajinkenken@happy.odn.ne.jp URL: http://www.f-jinken.com/



旧松喜醤油屋前で記念撮影

## 「第十回筑前竹槍一揆ウォーク in 飯塚」を開催

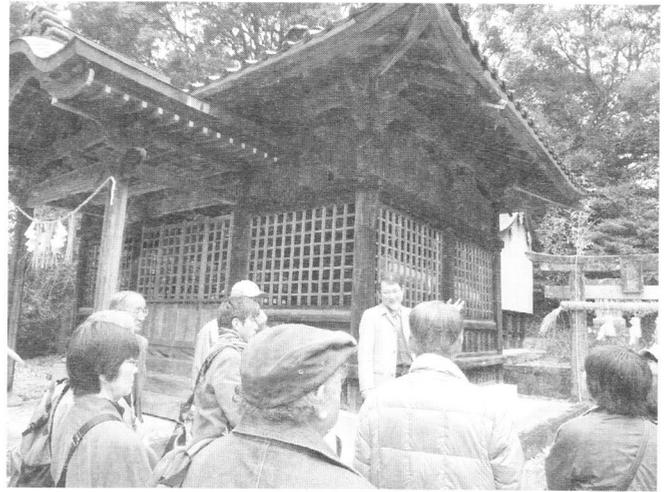
二〇一二年十一月二三日(祝)、「第十回筑前竹槍一揆ウォーク」を飯塚市で開催し、会場の飯塚市歴史資料館には、県内外から約七十人の参加者が集った。

講師は研究所理事の石瀧豊美さんと飯塚市在住で会員の白土秀美さん。フィールドワークの案内は、飯塚市教育委員会文化財保護課の嶋田光一さん。

最初に、主催者挨拶を研究所の松尾祐作所長が行い、次に、飯塚市企画調整部の大谷一宣次長が、地元を代表して挨拶した。続いて、石瀧豊美さんが、筑前竹槍一揆の概要について飯塚市の内容を交えて講演した。講演の後、参加者は歴史資料館で展示されている長崎街道展の史料や山本作兵衛さんの原画などを見学。その後スタッフの車に分乗して、高倉の日吉神社に向かった。

この「筑前竹槍一揆ウォーク」では、第一回と第八回に旧庄内町の日吉神社を訪れているが、本年が第十回という節目の年であることや町村合併により日吉神社の所在地が飯塚市になったこともあり、再度日吉神社が今回のコースに入れられた。

日吉神社の鳥居前には、明治六年六月に起



一揆について語る石瀧豊美さん  
(日吉神社にて)

きた筑前竹槍一揆についての案内板がある。案内板に目をやって鳥居をくぐり、石段を上ると、銀杏の葉が敷き詰められた境内が広がっている。お宮の脇に立った石瀧さんは「まさにこの地から歴史的な筑前竹槍一揆が始まりました」と解説した。

説明を聞き、境内を散策した参加者は再び乗車し、今回のメイン会場の一つである飯塚市顛田(かいた)の旧松喜醬油屋へ向かった。

到着後、玄関前で参加者全員の記念撮影を行い、家屋内の部屋にあがって昼食をとった。「ここで食事をしていると、明治時代にタイムスリップしたような気持ち」と県外からの

参加者が語っていた。

昼食後、奥の広間で白土秀美さんによる「旧松喜醬油屋と顛田地区の歴史について」の解説が行われた。説明を聞いた参加者は、家屋内の柱に残る竹槍一揆時の「なたぎず」や箱階段、船天井、つりはしごなどを見学した。

フィールドワークでは、当時一揆勢も通った路地を歩き、かつて酒屋を営んでいたという許斐家正面の「コテ絵」や多賀神社の「絵馬」などを、嶋田さんの説明を聞きながら見てまわった。薄曇りの天気であったが、美しい秋の紅葉を満喫したフィールドワークであった。

歴史資料館では、「竹槍一揆ウォーク」恒例となつた抽選会が行なわれた。景品は地元特産の「蛭子味噌」が一三名に、参加賞として「うこんのかりんとう」が全員に手渡された。

最後に、研究所の谷口研二事務長が、めざすべき社会・国家のビジョンや新しい施策についての説明を果たさなかつた政府、将来への不安や不満の感情を被差別部落への攻撃として表した人々、一揆に参加しなければならなかつた当時の人々の「絆」など、現代の私たちへの教訓を整理して、まとめの挨拶とした。

以下、参加者の感想を紹介する。

- ・飯塚市在住ですが、初めて見るところもあり、楽しくすごせました。
- ・一回目に参加できなかったので日吉神社に行けてよかったです。
- ・現地を直接見てまわるのは本当に、いい勉強になりました。
- ・旧松喜醬油屋で昼食というのはよかつたと思います。はりの大きさ、歴史を肌で感じる事ができました。もつと歩いた方がよかつたと思います。
- ・筑豊を身近に感じる事ができました。
- ・講義、解説ともよかつた。
- ・一揆襲撃のきずあとをナマで見ることができよかつたです。竹槍一揆を教材化して



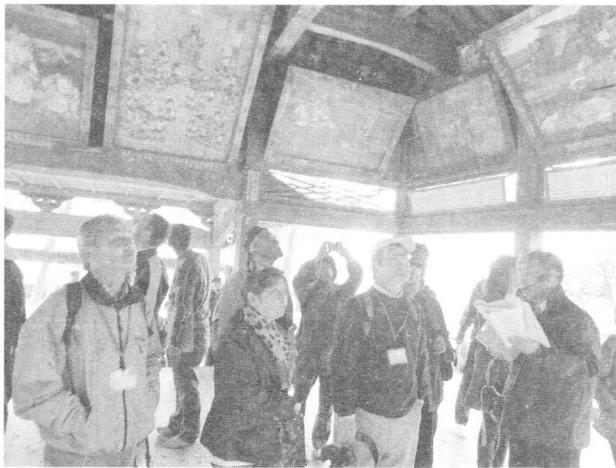
旧松喜醬油屋正面玄関の横にある  
竹槍一揆時につけられた傷あと



旧松喜醤油屋と颯田町の歴史を解説する  
白土秀美さん（旧松喜醤油屋）

たくなりました。

- ・ 筑豊の秋の風景の素晴らしさも堪能できありがとうございました。
- ・ 多くの人と一緒に現場を訪ね、当時の様子をイメージしながら学習できてとてもよかったです。
- ・ 新しい発見があつてよかったです。
- ・ 何度も参加して、そのたびに竹槍一揆について復習しています。旧松喜醤油屋や酒屋の昔の家屋について見られてよかったです。現地に行つてこそ感じるものがあるのだということがよくわかりました。
- ・ 筑前竹槍一揆が発祥した神社から見える金国山の景色や、その頃一揆が通過した飯塚の



嶋田光一さんから絵馬の説明を聞く(多賀神社)

町の豊かさを感じられる旅路でした。

- ・ ぬくもりを感じて帰ることができません。きつと手作りのプログラムと運営だからでしょう。
- ・ 知らないことが多いです。色々勉強になりました。
- ・ 今回は日吉神社が入っていたので、印象深く良い体験になりました。最初に石瀧先生の講義があつたのは良かったです。
- ・ 貴重な体験ができました。当時の緊迫した空気を感ぜようと必死でした。また、ちよつとしたすれ違いで事件が防げたのと思つた。
- ・ 歩く距離を気にして参加しましたが、車の移動もあつて助かりました。竹槍一揆については知りたいことがたくさんあります。



古い街並みが残る通りを歩く参加者

.....

なお、筑前竹槍一揆ウォークの十回目を節目として、今後、国内人権ツアーへの発展や竹槍一揆ウォークの深まりの工夫など、より効果的な事業のあり方を考えていきたいと思



講演する佐々木盛弘さん（ココロンセンターにて）

ハートフルフェスタ福岡2012  
佐々木盛弘さんが講演  
「三発目の“原爆”」二又ト  
ネル爆発事故から学ぶこと」

福岡市主催のハートフルフェスタ福岡2012が、十月十二日（金）から十四日（日）にかけて開催された。研究所からも参加し、十三日には福岡市人権啓発センター（ココロンセンター）で、元添田町教育長で会員の佐



ブース内に展示した『三発目の“原爆”』の原画（ふれあい広場にて）

々木盛弘さんが「三発目の“原爆”」二又トネル爆発事故から学ぶこと」というテーマで講演。一四日は福岡市役所西側ふれあい広場において絵本「三発目の“原爆”」の原画を行った。

講演で佐々木さんは、一九四五年十一月に起きた爆発の様子や自分をかばって亡くなった父親のことなど、当時を思い出しながら語り、戦争の愚かさ、教育の大切さ、家族のありがたさ等を若い人にも知ってほしいと話した。

以下、参加者の感想を紹介する。  
・ 幼い頃に見た二又トネル爆発の様子。

遠くからその音と真っ赤になった空を見ました。その後思い出すこともほとんどなかったのですが、市政便りで今回の講演を知り、参加させていただき、あの時の惨状やお気持ちなどをお聞きしてそうだったのかと改めて感じ入りました。戦争は嫌ですね。

・ すさまじい当時の事を改めて思い浮かべました。今日はその時の様子を詳しく聞かせて頂いて本当にありがたかったです。あの時の真相を分かっていただき長年の思いを今日はすっきりさせることができてありがたかったです。本当に今日は良かったです。

・ 佐々木先生の訥々とした話しぶりはいつ聞いても感動します。小・中学生には是非聞かせたい内容です。

### 八幡地区企業内

#### 同和問題研修推進委員会

#### 第十一回ワールドワーク

#### 下富野人権のまちづくり館で開催

十一月二日（金）、八幡地区企業内同和問題研修推進委員会（八幡企同推）の第十一回ワールドワークが、下富野人権のまちづくり館を会場に行なわれ、北九州市内の企業などから約三十名が参加しました。

今回の企画は、(社)福岡県人権研究所が八幡企同推から委託を受け、部落解放同盟小倉地区協議会(久保克彦委員長)の協力を得て行ったものです。以下、参加した原田憲正さんに原稿を寄せていただきました。

私の持論である「頭の学問から、部落差別の現実の実態を学ぶ絶好のツールがフィールドワークである」との問題提起をして、春日市の福岡県人権啓発情報センターで行ったのが第一回目。十一回目となる今年の企画でも大きな収穫を得ることができました。

案内していただいた部落解放同盟小倉地区協議会(小倉地協)役員の説明を聞きながら、被差別部落の劣悪な環境を放置してきた行政の責任が問われた「オールロマンズ事件」のことを思い出しました。一人しか通る事の出来ないほどの狭い路地、また地域で起きた差別落書き等の現実に触れ、法は失効したが、まだまだ問題が残っており、過去の問題ではなく、現在も厳しい実態があることを改めて認識することが出来ました。

そのような厳しい状況の中で、DVDも交え、差別のない明るい未来にむかって地道に取り組んでいる事や、周辺地域との交流を含めたまちづくり運動にも感動を覚えました。とくに、小学校六年時の「リバイイ大阪」などへの研修旅行、学力向上を目指した毎週

火曜日のドリムワークス、そして、ウイングを国外に広げての韓国の子ども達との交流ツアーなど、自立した運動を目指すためにつくられた「NPO法人フォーラム富野」を中核に、地域交流センター、教師、そして地域の人たちなどとの連携でグローバルな取組みに触れることが出来ました。

こども達が大きくなったら部落差別のない世の中にするためには、われわれもこれからこの問題にどのように取り組んでいくのかというのを改めて問われた今回の企画でした。

まだまだ厳しい就労の実態、厳しい大学進学率など、課題が残されている中、われわれ企同推は、もう一度、部落問題に取り組む契機となった部落地名総鑑差別事件の原点を振り返り、組織を再構築して取り組む決意を新たにさせていただきました。

小倉地協や地元の教師、そして(社)福岡県人権研究所の皆様改めて感謝いたします。

会員 原田憲正



フィールドワークの様子



説明を聞く企業同推の参加者

## 人権資料・展示全国ネットワーク 第一七回総会 水俣病歴史考証館で開催される

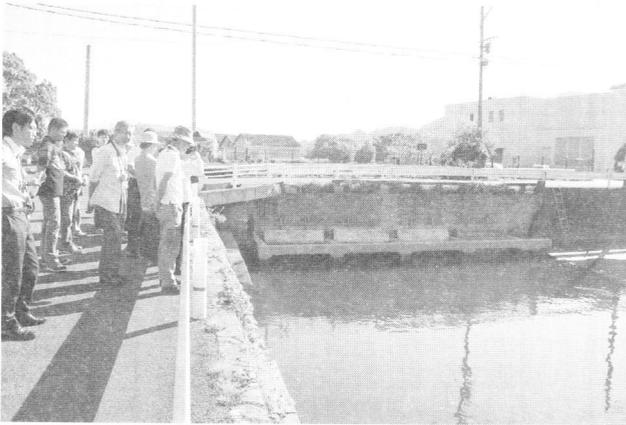
人権資料・展示全国ネットワーク第一七回総会が九月二十七日(木)・二十八日(金)に水俣市の水俣病歴史考証館を会場に開催され、全国一七の人権団体から二九人が参加した。

一日目に行われた総会行事では堀内忠会長(田川地区人権センター)が主催者挨拶を、遠藤邦夫さん(水俣病歴史考証館)が地元を代表して挨拶を行った。遠藤さんは、学生のスポーツ大会時において起きた水俣に対する差別発言事件にふれ、「水俣病発生から五十年以上経った今でも差別は明らかに存在する。今後、よりいっそうの教育・啓発が必要」と語った。総会審議後の加盟団体報告では、水俣市平社博物館への差別街宣事件についての経過報告、ツラッティ千本(京都)や久留米市人権センターの活動報告、さらに大阪人権博物館の現状と課題についての報告があり、意見交換が行われた。

休憩をはさんで、水俣病患者語り部の緒方正実さんからお話があった。

一九五七年六人きょうだいの次男として生まれた緒方さんは、幼少期、祖父と父を劇症型の水俣病で亡くし、家族のほとんどに何らかのかたちで水俣病の症状があるという。幼少期から受けてきた差別や偏見により水俣病であることを隠してきたが、三十歳を過ぎて初めて自身の水俣病被害と向き合ったという体験や、国に対しての憤りなどを語った。講演後、参加者は水俣病歴史考証館内の展示物を見学した。

二日目は、水俣病歴史考証館の永野三智さんのガイドで、水俣病関連地をフィールドワークした。ネコや海鳥の大量死があった地区、水俣病が公式確認された場所、水俣病原因物



工場の廃液がたれ流されていた「百間排水口」

質の流出経路である百間排水口、水俣湾の埋め立て地、チッソ工場周辺などを見学。永野さんは、「かつては行商などで山間部まで魚を売り歩いていました。沿岸漁民だけでなく、広い地域に患者さんは生活しており、認定もされていないで苦しんでいます。水俣病の問題はまだまだ解決していません」と語った。

最後に、障害者施設「ほつとはうす」を訪ねて胎児性水俣病のみなさんと交流した。参加者は「胎児性患者の皆さんと自分と同年代。話を聞いていたら涙が出てきた」、「水俣病を決して忘れてはいけなと思った。多くの人にこのことを伝えていきたい」と語っていた。(写真はいずれも事務局撮影)



水俣湾埋め立て地の慰霊碑前で

# 報 告

○本研究所理事の石瀧豊美さんが「福岡市文化賞」を受賞しました。

石瀧豊美理事が、二〇一二(平成二四)年度の福岡市文化賞を受賞しました。この賞は、福岡市の文化の向上発展に貢献し、特にその功績が顕著な個人、団体に贈られるもので、石瀧理事の長年にわたる歴史研究が対象となつたものです。石瀧理事は部落史をはじめ玄洋社や筑前竹槍一揆など、福岡に関する研究業績も多く、二〇一〇(平成二二)年には『玄洋社・封印された実像』を、今年五月には『筑前竹槍一揆ノート』を出版しています。

○部落史連続講座で講演した服部英雄さんが、「第六十六回毎日出版文化賞」を受賞しました。

研究所主催の部落史連続講座で講演していただいた九州大学教授の服部英雄さんが、『河原ノ者・非人・秀吉』(山川出版社)で、「第六十六回毎日出版文化賞」を受賞し、十一月二十八日に東京都内のホテルで授賞式が行われました。

毎日出版文化賞とは、毎日新聞社が主催する、優秀な出版物を対象とした文学・文化賞で一九四七年に創設。毎年十一月に受賞者が発表されます。文学・芸術部門、人文・社会部門、自然科学部門、企画部門の四部門があり、服部さんは人文・社会部門での受賞です。

○第五十一回福岡県人権・同和教育研究大会で会員が報告しました。

十月二十七日(土)・二十八日(日)、第五十一回福岡県人権・同和教育研究大会が筑紫地区で開催されました。

今年の研究大会は、今年が「国連識字の十年」の最終年であることを踏まえ、全体会議演(京都女子大学教授岩槻知也さん)のテーマは「識字のチャレンジ!これからの識字運動を考える」。それを受けて、二日目の特別講座1では、本研究所会員で『リベラシオン』に「木村かよ子のスケッチブック」を連載している木村かよ子さんが「出会いと学びを重ねながら」というテーマで、自作の絵本『おさこのかや』をスクリーンに映しながら、生い立ち、識字学級での教師との出会い、博多青松高校やその後の出会いと学びの体験を語りました。

さらに、午後からの特別講座2では、本研

究所谷口研二事務長が、「これから求められる『生きる力』と『まちづくり』」というテーマで、国際的な人権教育の課題意識、識字学級での出来事と教訓、人権・同和教育の成果と課題、教育改革と学習権の保障の課題等に関連付ける問題提起を行いました。

## 「全九州水平社創立九〇年記念誌」 編集委員募集

来年は、一九二三(大正一二)年五月一日の全九州水平社創立から九〇年。「七〇周年誌」「八〇周年誌」を踏まえて、本研究所の「松本治一郎・井元麟之研究会」が中心となって、「九〇年記念誌」の編集を始めています。

共に史資料の整理、編集に携わっていた  
だけの方は事務局にご連絡下さい。



# お知らせ

## ○第一七一回定例研究会

&ジェンダー部会

「旧柳原遊郭街跡・寛政五人衆の史跡をめぐるフィールドワーク」

▽講師 立石武泰さん（ハカタ・リバイバルプラン）園田久子さん（研究所理事）

▽日時 二〇一二年十二月二三日（土）

一四時～

▽集合 原三信病院前（博多区大博町一八）

▽参加費（資料代・保健代含）五〇〇円

## ○史実と授業・啓発の結合をめざして

▽講師 阿南重幸さん（長崎人権研究所）

▽日時 二〇一三年二月九日（土）

一四時～一七時三〇分

▽会場 AIM三階（JR小倉駅北口前）

▽参加費 一般一、二〇〇円（会員一、〇〇〇円）

## ○人権啓発担当者のつどい

「人権文化豊かな社会に」

▽講師 稲積謙次郎さん

▽日時 二〇一三年二月五日（金）

一八時三〇分～二〇時三〇分

▽会場 富士見ホール（小倉南区富士見二一八二）

▽共催 北九州人権フォーラム21

## 研/究/所/日/誌/か/ら (2012.9.15～2012.11.29)

- 09/20(木) 事務局会
- 09/25(火) 『リベラシオン』147号発行 プロジェクト「歴史学習」
- 09/27(木) 人権資料・展示全国ネット第17回総会（～28(金)水俣） 松本・井元研究会
- 10/01(月) 事務局会
- 10/04(木) 松本・井元研究会（全九水90年記念誌編集委員会）
- 10/05(金) 編集委員会
- 10/06(土) 啓発部会
- 10/11(木) 事務局会
- 10/13(土) 福岡市ハートフルフェスタ1日目（佐々木盛弘さん講演）
- 10/14(日) 福岡市ハートフルフェスタ2日目（『三発目の“原爆”』原画展）
- 10/22(月) 事務局会
- 10/23(火) プロジェクト「歴史学習」
- 10/27(土) 福岡県人権・同和教育研究大会1日目（筑紫地区）
- 10/28(日) 福岡県人権・同和教育研究大会2日目 九州地区部落解放研究連絡協議会（熊本）
- 10/29(月) 部会長会 運営委員会
- 10/30(火) 松本・井元研究会（全九水90年記念誌編集委員会）
- 10/31(水) 会計監査
- 11/02(金) 八幡地区企業内同和問題研修推進委員会（企同推）フィールドワーク（北九州市）
- 11/07(水)～09(金) 部落解放全国研究集会（滋賀）
- 11/13(火) 部落史研究部会
- 11/18(日) 執行理事会
- 11/21(水) 大阪同和・人権問題企業連絡会フィールドワーク（福岡市）1日目
- 11/22(木) 大阪同和・人権問題企業連絡会フィールドワーク2日目  
松本・井元研究会（全九水90年記念誌編集委員会）
- 11/23(金；勤労感謝の日) 第10回筑前竹槍一揆ウォーク（飯塚市）
- 11/27(火) 啓発部会「人権啓発担当者のつどい」（福岡市） プロジェクト「歴史学習」
- 11/29(木) 事務局会

（※その他、住民意識調査等の受託事業実施や公益法人化等に関連する調整・事務、研究・教育・啓発に関する相談等の業務については省略しています。）